

迫力のマーチングでファンを魅了  
音楽を通じた幸せな時間の共有

「2015 マーチングフェスティバル in ふじさわ」は11月15日、藤沢体育館で開かれ、地元の園児をはじめ市内外から6団体が出演。今年も元気な地域づくり事業として開催しました。

5歳児の「ふじっこエンジェル」によるかわいらしいマーチングを皮切りに、息の合った演奏と計算された美しいフォーメーションを見せた「藤沢小中学校マーチングバンド」や、心にしみる歌声を披露した「花泉中学校特設合唱部」など各団体が演奏と演技を熱演しました。実行委員長の熊谷進さんは「マーチングは音楽のまち藤沢町ならではの活動。これからも続けていきたい」と意気込んでいました。



長年親しまれてきた市営バスの有終の美を飾って  
川崎地域・魅惑のスポットを市営バスで巡る

市営バスふれあい事業「市営バスで巡る川崎バスツアー」は11月7日に行われ、地域住民など17人が川崎地域内の名所などを巡り、同地域の魅力を満喫しました。

同地域を走る市営バスの更新に伴い、現行車両は乗り納め。長年、地域住民に親しまれてきたバスの最後を飾るイベントとして開かれました。

ツアーでは、河川調査船「ゆはず」への乗船、(有)かさい農産でごぼう茶づくり体験、かにぱっと昼食、岩手県無形民俗文化財「布佐神楽」や笠松の学習などを実施。参加者は、川崎地域の魅力を五感で楽しんでいました。

人工滝で妨げられているサケの遡上をお手伝い  
14匹を「サケ移動大作戦」で上流へ

「第10回サケ移動大作戦」は11月14日、同市川崎町の色の御前滝付近で行われ、関係者ら約30人がサケ14匹を捕獲して遡上を手伝いました。

千厩川にサケをよぶ会が主催する同イベントは、千厩川下流の人工滝で妨げられているサケの遡上を手助けするために実施。下流で捕獲したサケをカトリック清心幼稚園前で再放流することで自然産卵を促しています。毎年2月には、稚魚を放流。10年にわたって、継続的に活動を行っています。同会の永澤公男会長は「節目を迎え、思いもひとしお。きれいな川を目指して活動を続ける」と気持ちを新たにしていました。



小さな苗木に緑豊かな未来の願い込め  
アストロ・ロマン大東で一関地方育樹祭

一関地方育樹祭は11月7日、大東町大原のアストロ・ロマン大東で開かれ、参加者が緑豊かな地域を次世代につないでいくことを願い、苗木の植樹を行いました。

同祭は毎年、一関地方の各地域を持ち回りで開いているイベント。今年は、興田、川崎、金沢の各小学校の自然愛護少年団46人のほか、関係者ら約150人が参加しました。

参加者は、同施設内の緩やかな山の斜面約3千平方メートルにオオヤマザクラ3本を記念植樹したほか、山ツツジ300本を植樹。小山歩美さん(興田小5年)は「植えた桜が長生きして、きれいな花を咲かせてほしい」と願っていました。

桜の名所として市民に愛され60年  
磐井川堤防の改修工事に伴い桜並木を伐採

市内を流れる磐井川の堤防改修工事に伴い、堤防沿いに植えられていた桜の木の伐採が始まりました。

桜の木は、水害で犠牲になった人たちを供養するため1951年に植樹。春には桜の名所として、磐井川河川公園とともに市民の憩いの場として親しまれてきました。

伐採作業は10月19日から開始。作業を見守っていた五代町の阿部謙治さん(72)は「家族と散歩した思い出の場所。寂しいですね」と話していました。伐採された桜の木は全部で107本、残りは8本になります。堤防改修に併せ、新たな桜の木の植樹も始まっています。



大正時代～昭和30年頃に行われた花嫁道中を再現  
むかさり行列に沿道から祝福の拍手

一関地方で1955年頃まで行われていた婚礼の儀式などを再現する「むかさり行列」は10月31日、巖手町で行われ、昔ながらの花嫁道中に市民らが盛んな拍手を送っていました。

同行列は今年で11回目。伝統的な儀式の継承と地域の活性化などを目的に同実行委員会が開いているものです。

今年の花婿、花嫁は本市出身で北上市在住の佐藤裕太さん(27)と千春さん(27)。市博物館を出発した一行は、巖手市民センターまでの約700mを練り歩きました。沿道からは、祝福の拍手が送られ、仙台市の千葉恵さんは「カメラに収めようと駆けつけました。来年もまた来たい」と話してくれました。

過去最多37人で挑むシンクロナイズドスイミング  
大迫力の技やコミカルな演技に拍手喝采

10月31日と11月1日に行われた「高専祭」の目玉イベント「ウオーターボーイズ&ガールズ2015」は、今年も一関高専のプールで開かれ、市内外から詰めかけた観客を魅了しました。

同イベントは、一関高専水泳部(阿部佑哉部長、部員42人)が毎年開催しているもので、今年で12年目。市を代表する名物イベントの一つです。

公演では、男女合わせて37人の部員が9演目を披露。女子部員による前座、恒例のプールサイドでのダンスや迫力のジャンプで会場を盛り上げました。そのほか、時代劇のテーマを使った新企画「ブレイク」を初公開。会場の笑いを誘いました。クライマックスは、高さ5mにもなる四段やぐら。観客らは、部員たちの一生懸命な姿に大きな拍手を送りました。

阿部部長は「9月から一生懸命練習に取り組んできました。一人一人最高の演技ができた」とにっこり。初めて鑑賞した阿部直子さんは「思わず、手拍子をしたくなる演技。とても感動しました」と話してくれました。

